

防災教育を軸とした教科横断的な学習（社会科） 実践報告

1 2年生社会科（地理的分野）東北地方 「過去の継承と未来に向けた社会づくり」 授業実践

導入

導入では、本時の中心となる「東日本大震災」について、興味関心を高めるため、津波や家屋の倒壊など当時の状況が分かる資料を提示した。災害の規模の大きさを実感させることができ、「うわっ」という生徒の反応があった。その後、「石碑に刻まれた碑文の意味」「東北地方に点在する自然災害伝承碑の位置」などを確認し、「東北地方では、過去の災害からの教訓をどのように生かしているのか」と課題を設定した。



【導入の様子】

展開

展開では、教科書、地図帳、資料集に加え、インターネット資料から読み取りを行った。インターネット資料を「自助・共助・公助」の視点で精選したことで、生徒が3つの視点に沿った交流をする姿につながった。全体交流では、資料から読み取ったことに加えて、神岡中学校で年に3回実施している防災学習で学んだ知識を駆使した発言もあり、他領域の学びとつなげながら考えることができた。

「自助・共助・公助」でまとめた後、生徒の認識をさらに深めるために、「木碑」の資料を提示し、「石の方が、手入れが簡単なのに、なぜ、木でつくられた伝承碑を立てているのか」と投げかけた。「木の方が、文字が見やすい」「木の方が目立つ」という考えが多かったが、設置者のインタビューを通して「いつまでも忘れない、思い出させるため」と教訓を未来に受け継ごうとする、東北地方で生活する人々の思いにも触れながら、考えを深めることができた。



【ペア交流の様子】



【全体交流の様子】

終末

東北地方では東日本大地震が起きてから、2度とこのようなことが起きないように情報を伝えたり、石碑や木碑を建てたりして、未来にこのことをつないでいってのが分かりました。私も起きる前にできることはやっておきたいです。

【生徒のまとめ①】

東日本大震災から東北地方の人の取り組みがよく分かりました。石碑も忘れちゃダメということや町の人への呼びかけがしてありました。わたしも関係ないからって何もしてないはいけないと思うので普段から防災について考えたりこの前習った自助、共助を意識して暮らしたいです。

【生徒のまとめ②】

2 成果と課題

- 震災当時の写真を提示することで、当時の様子を想起させ、課題意識をもたせることができた。
- 映像資料を視聴したことで、自分たちの考えをより確かなものにすることができた。
- ▲追究資料の精選をさらにおこなうことで、より深い学びになる。
- ▲木碑の資料を提示する際に「4年に1回交換をする」という事実を押さえることで、教訓を受け継ぐ思いをより深く感じさせられると思った。